平成20年9月1日　第241号

わがまち

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net　<発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷
大判ポスター出力・データベース・PDF高速データ変換・CD-ROM制作・
3D・CGアニメーション企画・制作

半田中央印刷株式会社

〒475-0032　半田市潮干町1番地の21
TEL〈0569〉29-2525（代）　FAX〈0569〉29-4500
E-mail:main@handa-cp.co.jp　http://www.handa-cp.co.jp

Nobuo Murakami

元気のでてくる"ことばたち"⑲

村上信夫（アナウンサー）

心磨きのために、良いことを思う

～バレリーナ 森下洋子さん～

還暦のプリマ

世界的なプリマバレリーナ、森下洋子さんにとって、今年は、節目の年だ。団長を務める松山バレエ団が創立60周年を迎えた。それを記念して、チャイコフスキーの三大バレエ全幕上演に取り組んでいる。1月に《新・白鳥の湖》公演を終え、4月5月に《眠れる森の美女》を上演、そして12月には《くるみ割り人形》を踊る。

森下さんは、これまでおよそ二〇〇〇回舞台に立ってきたが、白鳥を八〇〇回、くるみを四〇〇回、眠れる森を一五〇回踊ってきたという。チャイコフスキーの三大バレエは、それぞれ思い入れがある作品なのだ。

もうひとつの節目。森下さんは、12月に60歳。還暦を迎える。この年齢で、全幕を踊り切るバレリーナは、世界でも例がない。

くるみ割り人形のクララといえば、12歳という設定。60歳の森下さんが踊ることになるのだが、「年を取れば取るほど、無邪気になれるの。年々、クララに近づいていけるの。演じようとしなくなってきたの」と屈託なく語る。

若いころ見えなかったものが見える。40歳過ぎてから踊ることか面白くなってきたという。人生を重ねてきたからこそ出せる哀しさ、優しさもある。

「体力、気力の限界は一度も感じたことがない」という。一五〇センチ、38キロの体のどこに、そんな体力、気力が潜んでいるのだろう。

「心を磨くことが何より大切」ともいう。「心磨きのためには、良いことを思うようにしている」。「バレエは心の芸術。技術ではなく心で見せるものだから」

さらに、森下さんの有名すぎる有名な言葉に、「一日休むと自分にわかり、2日休むと仲間にわかり、3日休むと観客にわかる」というのがある。稽古を一日たりとも休んではならないという戒めの言葉だ。いまも、午前中は、バーレッスン、基礎練習の時間。一日5～6時間は、稽古に当てている。

祖母と母の支え

森下さんの海外での評価は、著しく高い。一九七四年、ヴァルナ国際バレエコンクールで、日本人として初の金賞を受けた。一九八一年、パリ・オペラ座に、日本人として初めて出演した。一九八三年、ヌレエフのパートナーとして指名される。一九八五年、イギリスのローレンス・オリビエ賞を受けた。日本でも、一九九七年、女性で最年少の文化功労者、二〇〇二年には、日本芸術院会員となっている。日本バレエ界の押しも押されもせぬ第一人者である。

そんな森下さんが今日あるのは、様々な人の支えがあってのことだが、中でも、広島の祖母の影響は、計り知れない。

被爆して、収容先で死体と一緒に並べられ、お経まであげられたらしいが、必死に探していた母によって発見された。そして、麻酔もかけずに手術を受け一命を取り留めた。アメリカを憎まず、「助かっただけでも幸せ」と言っていた。

左半身にケロイド（やけど）の残る体でも、平気で銭湯に行った。左腕は曲がったままで、親指以外の指はくっついたままだった。不自由な手を使って、背中を流してくれた。いつも、背筋を伸ばして、毅然としていた。

俳画／イネ・セイミ

祖母からもらったものは、明るさと笑顔。祖母は、愚痴はいっさい言わない人だった。くよくよもしなかった。いつもプラス思考だった。「やってみて喜べるか、出来ないで悲しむか、考え方一つで変われる」という祖母の口癖を聞いているうちに、「まずは、やってみよう」と諦めない気持ちを持てるようになった。

祖母が79歳で大往生したその日、森下さんは、舞台でジゼルを踊っていた。祖母は、亡くなる直前に、コーヒーを1杯飲み、腰をさすられながら永遠の眠りについた。

森下さんが、バレエを始めたのは3歳のとき。もともと病弱で、病院通いばかりしていた。親が、体を鍛えるために何かさせたいと思い、自宅の真ん前にあったバレエ教室に通わせた。これが、体操教室や水泳教室だったら、世界のプリマ森下は出現していないかもしれない。不思議な巡り合わせだ。

「不器用だからステップの覚えも悪かった」らしい。何回も練習すれば出来ることがわかり、人よりも多く稽古をした。「稽古好きは、不器用ゆえのこと、やめたいと思ったことは、一度もない」根性の持ち主なのだ。

小学校2年生から、夏休みと冬休みは、一人で夜行列車に12時間乗り、東京へレッスンを受けに通った。「ヨウコブジツイタ」という電報が来るまで母は寝られなかったという。

小学校6年生になり、上京することになったが、母は「バレエの神様にあげた子」と許してくれた。母は、ステーキ屋をはじめ、その売り上げで、森下さんのバレエを支えた。しかし、高校を卒業してからは、仕送りは一切なかった。自分の責任で続けるようにという、母の明確な意思表示だった。

祖母、母、そして自分を育んだ広島への思いは、一際だ。あの惨劇から立ち直った「たくましさ」、移民も多い土地柄の「チャレンジ精神」、広島に生まれていなかったら…と思うことが多い。平和への思いも強い。「美しいものを愛する心。芸術を愛する心は、深い根のところで、平和を願う心につながる」

自分のバレエ人生を振り返ってみると、力で踊っていたのが、20代。気持ちいいぐらい体が動かせた30代。やっと、のびのびと踊れるようになった40代は、内面で何かが進んでいることを実感出来た。そして、50代に入り、踊ることがますます楽しめるようになった。還暦を目前に控えて、肉体を衰えさせないためには稽古しかないと、バーレッスンを怠らない。森下さんに、どんな60代が待ち受けているのか、楽しみでならない。

NHK

■村上信夫プロフィール

NHKチーフアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
4月からは、新番組『ラジオビタミン』担当。
（ラジオ第一 8：30～11：50）
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』「育児カレンダー」などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち！』（近代文芸社）
『おやじの腕まくり』（JULA出版局）『いのちの対話（共著）』（集英社）『いのちとユーモア（共著）』（集英社）

好評発売中

■イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ　常滑屋
とき　月一回　第二金曜日　午後一時～
会費　一回　二、五〇〇円（四ヶ月分前納制）
問合せ　☎〇五六三（三二）〇五八三

堤江実のポエムコンサートをCDでお届けします。

言霊（ことだま）に癒される
CD 堤江実のポエムガーデン
やさしい風がふいています。
木々の梢は光っています。
あなたの心がやすらぎで満たされますように。
あなたの心に喜びがあふれますように。

詩と朗読　堤江実
フルート　イネ・セイミ
ピアノ　はちまん正人
構成　佐藤よりこ
Disc1. 光のように
Disc2. 花のように
2003年10月22日発売
CD 2枚組3,150円（税込）

慈愛の人・良寛(39)

杉本武之

良寛と弟子の遍澄

良寛は、58歳の時に15歳の若い男の弟子をとり、70歳の時に30歳の女の弟子をとりました。親友の三輪左市も弟子だったとすれば、3人の弟子を持ったことになります。

若くて美しい貞心尼ほど知られていませんが、老境に入った良寛を献身的に助け、良寛に学問や詩歌や書に打ち込む余裕を与え、良寛の芸術をあれほどまでに高いものにした最大の貢献者の一人が、若い弟子の遍澄でした。その遍澄のことを書きます。

遍澄は、享和元年(1801)越後の三島郡島崎村で錠前鍛冶をしていた早川甚五衛門の長男として誕生。良寛より43歳年下。7歳ごろ、菩堤寺である真言宗妙徳寺に預けられ、見習奉公をしながら、住職の賢深和尚から読み書きを学んだ。

14歳の時に家に呼び戻されたが、家業の手伝いをするでもなく、近所の若者と遊ぶでもなく、一室に閉じこもって本ばかり読んでいた。読書好きだった少年時代の良寛によく似ていたので、まわりの人たちから「鍛冶屋良寛」と呼ばれるようになった。

15歳の時、思い切って五合庵に良寛を尋ね、弟子入りを請うて許された。そして、師と共に五合庵に住むようになった。良寛は遍澄のことが気に入ったにちがいない。あんなに狭い五合庵で一緒に暮らすのであるから、気が合わなかったら、本当に息苦しいものになったであろう。自分とよく似た性格で「鍛冶屋良寛」と呼ばれていた若者を五合庵に迎え入れ、よほどうれしかったのか、良寛は「二人の良寛」のことを何首か詠んでいる。

◎粥二合業三合をまぜくはせ　五合庵にぞ君は住むなり（「業」は「体・口・心による三業」のこと）

◎自今以後納所は君にまかすべし　二合三合わけのよろしき（「納所」は「台所」）

◎君と我れ僅かの米ですんだらば　両くはん坊と人は言ふらむ（「両くはん坊」に「二人の良寛坊」と「あまり食べない二人の坊さん」という意味がかけてある）

◎いざさらば我れもこれより乞食せん　借宅庵に君は御座あれ

五合庵に住むようになった遍澄は、食事の準備、薪集め、部屋の掃除といった日常の雑事に精を出すとともに、仏典を中心とした学問や詩歌を良寛から学んだ。托鉢に出掛ける時は、師の後ろに付いて、一緒にお経を唱え、師が受け取った米を頭陀袋に入れていた。

その翌年、良寛59歳、遍澄16歳の時、二人は老朽化が進んできた五合庵を出て、麓に近い乙子神社の社務所に移った。そこは五合庵よりも広く、八畳の部屋を良寛が使い、二畳の小部屋を遍澄が使った。遍澄は常住していたわけではなく、必要な時に来て用を足していたと思われる。

良寛像（遍澄画）

それから10年間、二人は充実した日々を過ごした。心身ともに余裕のできた良寛は、そのすぐれた才能を思う存分発揮し、いわゆる「良寛芸術の円熟期」を迎えた。

良寛は、乙子神社草庵に移ってからすぐに江戸と東北地方に長期にわたる旅行をしている。遍澄が留守番をしてくれるから、自由に長旅に出掛けることができたのである。

良寛が多くの人達から崇拝されるようになり、その弟子も立派な僧だという評判になったのであろう。文政9年(1826)、26歳になった遍澄は、地蔵堂村の大庄屋・富取武左衛門の強い懇請によって、同村の願王閣の閣主として招かれた。老齢で体も弱ってきた師をひとり山中の草庵に残しておくことはできないと考えた遍澄は、自分の生まれ故郷の島崎村の富豪・木村元右衛門に頼んで、師を引き取ってもらった。

5年後の天保2年(1831)1月、良寛の危篤を聞いて木村家に駆けつけた遍澄は、貞心尼、木村家の人々、由之（良寛の弟）などと共に良寛の看護にあたった。良寛は最愛の弟子・遍澄の膝を枕に大往生をとげたと言われている。

師の死後、遍澄は願王閣の閣主をつとめるとともに、至誠庵という塾を開いて付近の子弟の教育にあたった。また、亡くなった師の遺した詩歌の蒐集や整理に努めた。刊行された最初の良寛詩集と言われている蔵雲編『良寛道人遺稿』(1867)は、本当は遍澄が集めて一冊にまとめておいたものがその基本になっている。

46歳の時に眼病にかかり、55歳で完全に失明。そこで、やむなく島崎村に帰り、菩堤寺の妙徳寺で勤行生活を送った。明治9年(1876)死去。76歳だった。

遍澄は、良寛に劣らず性格が温厚で純真でした。詩歌や書をよくしたほかに、絵の才能にも恵まれていました。良寛の肖像画を4点遺しています。良寛のことを一番よく知っていた遍澄の絵が良寛の本当の姿を表現していると私は思います。（写真参照）

さて、どうして良寛は若い遍澄を弟子にしたのでしょうか。良寛は18歳の時、父親に反抗をして家を飛び出ました。長い間放浪生活を送り、22歳の時、名僧・国仙和尚に出会い、弟子にしてもらって、備中玉島の円通寺まで付いて行き、そこで厳しい修行をしました。遍澄が良寛に弟子入りを頼んだのは15歳の時でした。良寛は、自分自身の10代後半の苦悩を思い出したのでしょう。若者に対して良寛は、こんな返事をしたと思われます。

「わしは、ごらんのとおり、貧乏な生活をしている。食べる物が無い日もある。部屋も一つしかないし、狭苦しい。もっとも、何一つ余分な物が無いから、ぼんやり座ったり寝たりする場所はある。苦労するよ。それでもいいなら、しばらくここにいるかね」

私は、遍澄の弟子入りの情景を想像する度に、黒沢明監督の『七人の侍』を思い出します。野武士の略奪から小さな農村を守るために集まった七人の侍たちの話ですが、映画史上最高の傑作と称えられ、世界中の映画人に大きな影響を与えてきました。私は、中学3年生だった54年前に初めて見てから、この映画を20回以上見ています。何回見ても圧倒されます。私が思い出すのは、七人の侍の中心人物である勘兵衛に、若い侍の勝四郎が弟子入りを頼むシーンです。

勝四郎「岡本勝四郎と申します。お願い致します。是非、門弟の一人にお加えを」

勘兵衛「門弟？…おれは島田勘兵衛という見かけ通りの浪人でな…別に門弟などおらぬが…ま、立ちなさい。そのままでは話にならん」

勝四郎「お願い致します。是非、お弟子に」

勘兵衛「おれは別に特別の人間ではない。ただ、合戦には随分出たが、それもみんな敗戦ばかりでな。要するに、ただそれだけの男だ。ま、そんな不運な男について来るのはやめた方がいい」

勝四郎「いえ、もう私の腹は決まっています。お許しがなくとも付いて参ります。何処までも後から付いて行きます」

勘兵衛「断る！おれは供を連れて歩ける身分ではない。おれだけでも食うや食わずだ」

遍澄の存在の重要性について、国文学者の石田吉貞は『良寛　その全貌と原像』の中でこう書いています。「遍澄は、謙虚でつねに人の眼につかないところで師のために尽くすといったところがあったゆえか、貞心尼のごとく世に知られなかったが、もしこの弟子がなかったならば、良寛の晩年の草庵生活は、いかに寂寥と艱苦とをきわめたか想像もできないほどである」

〈杉本武之プロフィール〉
1939年　碧南市に生まれる。
京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。
〈趣味〉読書と競馬

この指とまれ(150)

タケで遊ぶ(3)

氏原朝信

モウソウタケ

このタケのなじみは、何といっても筍でしょう。塩漬けにして保存していたものを六月の田植えころ、よく食べました。何もない時期なので、めずらしく、何よりのおかずであり、うまかった覚えがまだ舌に残っています。

また、筍の皮で梅干しを包んでチュッチュとおやつ代わりに吸った味も忘れていません。

モウソウタケで作って遊んだのは、竹トンボ、竹ぽっくり、虫かご、筏（いかだ）などでした。

モウソウタケは肉厚ですので、竹ひごも作っていました。もちろん、これまでに紹介しましたマダケやハチクの方が作りやすかったです。均一の太さの竹ひごにするためには、いろいろの太さの径の穴があいている五～六センチ四角の鉄製の竹ひご作り道具がありました。金物屋さんにまだあるかもしれません。

竹ひごで鳥かごや飛行機・グライダーの翼や凧を作る時期は、秋から冬にかけてでした。この時期の竹は水気が少ないので、腐りにくく、虫が入らないのです。ちょうどその頃になると、それらの遊びもはやったのでしょう。

竹ひごを真っすぐにしたり、曲げたりするのには、ローソクの火でした。竹ひごをローソクの火にあぶりながら、設計図どおりに飛行機やグライダーの翼を作ったものでした。

モウソウタケに関係したなぞなぞを紹介します。

(1)　酒を飲んで山で赤く（実際は黄色）なってフラフラしているものなあに。

(2)　畑で竹に首を引っ掛けられて泣いているものなあに。

（答え）(1)　ミカン　(2)　ナスビ

タケの葉は、笹舟や笛の弁になります。

ネブチ（竹の根）は、子どもの頃、先生の指示棒やいたずら坊主の頭叩きでした。叩かれるのを知っておりながら、長いネブチを見つけると、自慢げに持っていったものでした。

Oeuf Oeuf（ウフウフ）仏語で卵という意味です。

陽の光も優しさを取り戻し、心地よい風を感じながらサイクリング。目を閉じ聞こえてくる虫の音は、暑かった今年の夏の疲れを癒します。休暇を頂き、久しぶりに主人とそして二歳になる前に子供と初めて飛行機で旅行へ出掛けました。『おしっこ』が言えるようになり『トイレトレーニング終了間近』なのでお着替え、おもちゃ、おやつなど子供の荷物をいっぱい抱え出発！子供優先なので、ゆるり～のんびり～旅♪また美味しいパン屋さんをリサーチしてあったので、六件ほど回りカフェブレイク。黄色のもちっとしたパンはかぼちゃがたっぷり練りこんであるレーズンパン。眼で見ても美しい盛り付けの栗のデニッシュ。たっぷりの小倉餡の中にさらにホックホクのサツマイモが入ったお芋あんぱんに感激。夢乃蔵のお客様にも食べていただきたいなぁ～とその場で概観をスケッチし、食べた食感でレシピを起こし記録に残しました。（もちろん帰ってきたらすぐに作り試食早速販売開始♪おすすめです。）一足早く秋の味覚を楽しむパンに出会えました。三十五度を超える毎日に二百度のオーブンの熱、十三時間労働でへとへとの毎日でしたが、頑張った自分へのご褒美になりました。お店OPEN、出産そして育児と仕事の両立。大変で涙した事も多々、ストレス性胃炎にかかり『何の為に朝四時から十三時間働きづめで働いているのか？』自暴自棄の時先輩が『女性がストレス無くい仕事をするにはオン（仕事）とオフ（家庭）の切り替えが大事』だと教えてくださり、お客様からお叱りの声もあるのですが、日曜日も少しだけお休みいただくようにしたら正直、幾分気持ちも楽になりました。

機械化せず、インスタントの冷凍生地は使わず、手抜きをせず、手間がかかりコストもかかるのですが、出来るだけ買いやすい値段で提供できるようスタッフ全員が一丸となって手作りしているのが夢乃蔵パン工房です。全員女性のスタッフ、安心安全なものを食べさせたい子供や、健康を気遣う家族のために、いいものを作りたいと思っています。

この夏子供パン屋さん職業体験を行い十八名のかわいい子供たちと一緒にパン作りしました。初対面の子供とたった三時間弱の間ですがパン作り→パンの販売。売上げを金券でお給料として子供たちに返し仕事とは、お金とは、沢山のことを一緒に学びました。日本でたった一件だけでも、こんなパン屋があってもいいのかなぁ～と思っています。九月二十三日にも行います。参加者募集中。見学も大歓迎です。♪

料理研究家　長澤晶子

いべんと

◎常滑市民文化会館
▼丘陵祭・五日(金)午前十時～午後四時
▼常滑おやこ劇場　高学年部例会『ミュージカル　5(FIVE)』・七日(日)午後六時半～同八時十分
▼常滑市小中学校　音楽会・十二日(金)午後一時～同三時半
▼常滑地区敬老会・十四日(日)午前十時～午後〇時半
▼中川ひろたか＆新沢としひこファミリー　コンサート・二十一日(日)午後一時半～同三時半
▼松岡伶子バレエ団　大野研究所発表会・二十三日(火・祝)午後一時半～同四時
▼とこなめフォーラム2008「とこなめのこれから」・二十八日(日)午後五時半～同七時半
◎常滑市立図書館
▼鬼崎木版画教室作品展・～九日(火)
▼ティシューズ展・十日(水)～十八日(木)
▼長楽印会篆刻展・十九日(金)～二十七日(土)
▼中日写真協会常滑支部展・二十八日(日)～十月九日(木)
◎常滑市民俗資料館
▼第三回企画展「室町・桃山の常滑焼」・六日(土)～十月十九日(日)
◎常滑市体育館
▼常滑市児童館親善ミニソフトバレーボール大会・六日(土)
▼第三回とこなめ女子剣道大会・七日(日)
▼東海中学校卓球選手権大会　愛知県予選・十三日(土)
▼スポーツ少年団フェスティバル2008・十四日(日)
▼知多学園運動会・二十日(土)
▼市民スポレック大会・二十一日(日)
▼愛知県高等学校東海地区予選　卓球大会・二十三日(火・祝)
▼第一〇二回市民バスケットボール大会・二十八日(日)
◎常滑市中央公民館
▼自主事業・文化協会茶華道部共催月見茶会・十三日(土)午後七時～同八時半　内容　①琴の演奏　②俳句・短歌の鑑賞　出演　お琴に親しむ会　文化協会茶華道部　常滑短歌会　若竹句会　きよみず会　夏爐常滑句会　場所　中央公民館和室　対象　どなたでも　参加費　百円（お茶菓子代）
▼市民講座Ⅱ　いざという時に！・十月一日、八日（各水・全三回）午前十時～正午　内容　①大震災に備えて　②救急法、AED　講師　市職員　場所　中央公民館会議室他　対象　市内在住、在勤の人　定員　二十名　受講料　無料　申込み期限　二十五日(木)
◎青海公民館
▼市民講座Ⅰ　知多四国の歴史と文化・十八日(木)、二十四日、十月一日(各水・全三回)午後七時～同九時　内容　知多四国八十八カ所が開創されて二百年の歴史が

（5ページへ続く）

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
常滑ホール／鬼崎ホール／阿久比ホール
TEL〈0569〉35-4949（代表）
FAX 35-4911

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン
(有)知多エッグ
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ葦380
TEL0569-73-6341

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(9)

《見えてきた バリ・ウブドウ、プリアタン村の子どもと学校②》

◆

「あっ！バリ島の子どもの尊敬している人って、みんな揃って両親と先生を一位と二位にあげている。スゴーイ！」

このアンケート調査は、両親・教師以外に、家族・親族・友人・その他（記入）・なし――の選択肢を掲げ「あなたが、一番尊敬する人」を尋ねるものでした。分担して集計した各小学校・中学校とも、両親と教師に集中し、それ以外の項目は皆無。異句同音に学生諸君は驚きと感心の驚嘆の声をあげる。睡眠時間調査の際も同様でした。

私が逗留していた近くのプリアタン村の小学校の集計結果は、こうでした。両親と教師への尊敬実数です。

［1年生］両親18人・教師1人。［2年生］15人・3人、［3年生］10人・5人、［4年生］11人・6人、［5年生］10人・9人、［6年生］9人・11人。

この小学校での調査結果は、他の小学校とほぼ同じ傾向であり、学年が上るにつれて教師を一番尊敬する子どもの人数が多くなってきています。

さらに中学校段階になると、教師を尊敬する子どもが増加し、親との順位が入れ替るという変化も見られますが、依然として多くの中学生が両親への尊敬の念を強く抱き続けているようです。

自由記述で尋ねた尊敬の理由もその内容において不思議なほどにまとまっています。通訳を通して要約すると次のようになります。

［親］①よく働くところ。②何でもよく教えてくれるところ。

［教師］①熱心に、わかりやすく教えて下さるから。②知識がたくさん得られるところ。敬語で伝えてくれます。

◆

本紙二月号で一部報告したように、日本では90年代、すでに13万人にものぼる小・中学生の不登校の実態（本年も同傾向と文科省発表）を踏まえて、あえて「あなたは、学校は好きですか？」「学校がきらいで、学校を休んだことがありますか？」と問うてみた。

その結果は、調査対象である四百八十名の小・中学生全員が、揃って「学校は楽しい。」「学校がきらいで、学校を休んだことはない。」と、判で押したように回答してきた。

学校が楽しい理由も尋ねてみた。その理由は――①先生が熱心に、わかりやすく教えて下さるから、大切な知識が多く得られるから、②友だちが、たくさんいるから、③本がたくさんあるから……と続く。①にふれて回答した子どもが多数でした。

私は、この回答を見て、バリの子どもたちには、「自分たちの〝求知心〟を満してくれる専門家が『教師』であり、それが満される場所が『教室』であり、『学校』である」という、素直な〝教師観〟・〝学校観〟が、知らず知らずの内に受け継がれ、それが深く強く根づいているのではないか。だからこそ、子どもたちは、毎日早朝より登校し、校庭の美化につとめ、教室を清掃し、花を飾り、教卓に盛り花を捧げ、教師の〝お出まし〟を待つという行動をとるのではないかと、推論してみたとき、この確固たる子どもたちの教師観や学校観に、教師と学校の〝原点〟を見る思いでした。

◆

授業中は、よく集中して教師の説明を聞く。その時の子どもの顔つきは、童顔ながらも迫力に満ち、時には息をこらすことさえあった。

教師の指示には、一様に子どもたちは反応し、よくわからない時には質問を返す。時によっては、教師はその子どもの側にきて、何度も説明をくり返して、納得を見届けて教壇に帰る。どうやらその授業での学習内容を、その時間内に理解させることを原則としているようだった。

したがって、授業終了後に、教師を追っかけて廊下や職員室で説明を求める子どもの様子も見うけなかったし、日本のように教師にスキンシップを求めてか、ベタベタ教師にまとわりつく子ども達の姿も見うけなかった。

教師は、ゆったりとした足どりで職員室に帰ってゆく。同僚とお茶を飲み団欒し、休息をとって、次の授業の体力と気力を養っているように見えた。

このように、バリ島の教師たちは、日本の教師や学校のように、教科指導はもとより生活指導や進学のすみずみまで関わり、時には親や地域・行政から責任を問われるということもなく、知的教科を子どもたちに興味をもたせ、学習させることにつきると言って、過言ではない。

学校での生活の仕方は、主に上級生が見本を示し、学年ごとの役割・仕事内容などを指導し、教師の労をわずらわせることなく、受け継いできているようだった。

日本でいう「生活指導」は、主として家族・親族や地域の人々の役割で、両親が子どもに尊敬される大きな理由に「何でもよく教えてくれるところ」と答えていたその内容は、家庭や地域での仕事の役割やしきたりや伝統、挨拶の仕方など、よき家庭人・地域住民になるための知識とわざについてである。

◆

このように、バリ島の村の学校の教師と親・地域住民は、子どもたちを、〝一人前の人間〟に育てるために、ハッキリと役割を分担している。

毎日の家庭や地域での日常生活は〝生きた生活学習〟であり、実習である。その指導が〝生きた生活指導〟そのものである。その指導者は、生活のベテランである両親や地域住民である。

それに対して、学校は、このような日常生活の中だけでは、充分に身につかない、生活や学習の基礎・基本になる大切な「知識」を筋道に従って、まだ未熟な子どもたちに、丁寧に教え、学び取らせる場所である。

その指導者は、そのための専門的な知識と技量をもった教養豊かな教師である。

まずは、読み・書き・計算という〝約束ごとの知識〟と私は呼んでるが、文字や数字の読み・書き・四則計算の記号とその意味の学習にはじまり、各教科の学習に入ってゆく。アンケートの中で、日本の中学年相当の四則計算を求めたが、低学年は別にして、全員正答を出していた。

さらにこのアンケートでは、学校で学んだことを、家で復習するか否かも問うてみた。96％の小・中学生が「はい」と答えていた。ともすると、教えられることが多すぎて〝習いすてがちになる日本の学習〟に対して、復習し、学校で学んだことを大切にする〝復習という学習の大切さ〟を、改めて学生共々再認識させられた。

この学校教育重視の思いと効率の良さ、教師への尊敬の度合いの高さは、教師の熱心さもさることながら、一学級十五名から二十名ほど総計百名内外の小規模編成の学級と、学校規模による物理的条件の良さによるところが大きい。この村には、この規模の小学校が六校あった。

◆

バリの小学校では、日本と同じような教科教育と共に、全国共通に宗教教育と「パンチャシラ（国家五原則）」という建国理念の教育を、小・中・高校と段階を重ねて教育している。成人から子どもまで、この五原則（①全能の神への信仰②人道主義③インドネシアの統一④合議と代表制による民主主義⑤全国に対する社会正義）はよく知っていた。

この国民必修の知識を、どのように小学生から教えているか興味はあるが、語学力不足の私には、知るよしもない。

それに対して宗教教育はよく理解できる。バリの人の大多数が信仰する『バリ・ヒンズー教』の教義は、私の理解するところ、〝自然と祖先への崇拝〟であり、学校での知的宗教教育と共に、家庭や地域での日常生活そのものが、日々〝自然の恵み〟に感謝し、祖先や神々に祈る宗教実習であり、バリの人々のあの「やさしさ・おだやかさ＝柔和さ」を醸（かも）し出している素でもある。私も含めて、多くの外国人も、バリの自然と共に、このバリの人々の人柄に癒されている。

◆

自分を一人前に育ててくれる親と教師を子ども達がこぞって尊敬することは、当然のことである。この当然のことに、いちいち、「スゴーイ！」と、驚嘆の声をあげざるを得ない〝日本の現実〟に〝悲嘆〟ばかりは、していられない。

ぼくの顔 わたしの顔

常滑西小学校 4年

石田　真也

伊藤　由衣

肥田　真由子

阪野　拓真

鯉江　紗衣

谷川　あい

村田　美桜里

村田　龍飛

加藤　黎

畑中　美乃里

坂田　大宗

稲嶺　未空

知多の動植物雑記（二四〇）

原　穣

九月に入れば、待ちに待った秋の到来。それにしても今年の夏の暑さは、まさに猛暑、猛暑の連続で、暑さの苛酷さをしっかり味わわせて頂いたものである。

そんなこともあってだろうか、美しく可愛い湿地の植物の生える壱町田湿地の生き物に異変が見られた。

それは第一回の公開日。七月二十日のこと。早朝から多くの参観者が、可憐な植物に魅せられ「美しいですネー」などと感嘆の言葉をかけて頂いたりしていたが、時間が正午近くになり、気温は上昇。参観者の数が途切れた時、湿地の中に置かれた板の上にアメリカザリガニがのこのこ。

何やってるのかと見ていればじき水中へもどる。なのに、また水中から板へ上ろうとしている（写真(1)）

何だろうかと近寄って、ザリガニのいた辺りに手をやれば、「なに！この水！お湯じゃないの！これではザリガニも入っておれないヨナ」と、湿地を守るメンバーと。

だったら、壱町田湿地の可憐さを代表するヒメミミカキグサはいいのかナと見に行けば、oh!大丈夫！花茎の長さは二㌢ほどで超小形。先端には薄桃色の、これまた小さな花をつけ、誇らし気に咲いていた（写真(3)）

辺りにはシロバナナガバイノシモチソウが、名前の通り純白な花をつけ、長い葉の表面についた多数の腺毛から粘液を出して虫を捕らえていた（写真(4)）

そして湿地周辺を見れば、長さ十五～二十㌢ほどの細長い茎の先に白い小さな玉がポツポツ。（写真(4)）シラタマホシクサの花のつぼみがついている。九月六・七日の公開日には、満開の白玉星草が湿地に輝くだろう。

午後三時、公開を終了し外へ出れば、路上に暑さのためか標本化したヤブキリが一匹（写真(2)）。可哀相！

ちょっとおじゃまします

『金太郎窯×Salon 2B』

企画手　加藤恵子さん

知らず知らず足が遠のきがちになってしまった常滑の日常。遠のきがちになってしまった窯元跡を利用し、9月から休憩処としてオープンさせた。当面は、金・土・日曜日の週末だけの営業となる。その休憩処はやきもの散歩道のコースにあり、すっかり名所となってしまった大きなまねき猫の裏にある『金太郎窯×Salon 2B』だ。

『金太郎窯×Salon 2B』の企画手である加藤恵子さんは、私の古くからの友人だ。私とは年代が違う。間を隔てる壁のようなものも感じさせない人柄であり、ふんわりとした甘さが残る女性である。ふっと気づいた時には、私の心は自然に開かれていたことを懐かしく思い出した。

「私に倉庫みたいな所を貸してくれないかなあ…」と、加藤さんの一言に知人が場所を提供してくれた。人が大好き、出逢いが大好き、企画することが大好きな加藤さんの周りには、いつも多くの仲間がいる。現在、企画を構想中というが、こっそりと教えてもらった。お茶タイムだけ英会話を気軽に楽しむイングリッシュカフェを企画中という。

『金太郎窯×Salon 2B』の店内では、50年前に築いた窯を見ることができる。時がたった窯の中は、釉薬の溶け出した一瞬の芸術に出会うことができる。素朴だけれども、独特の美しさがある。同じ釜でも環境や条件で全く違って見えるから、面白い。高台にある『金太郎窯×Salon 2B』からは、伊勢湾と常滑の町並みを眺めることができる。ここには、旅人を家族のように快く迎え入れてくれる加藤さんのおもてなしと、心を和ませる魔法の風景がある。夏の暑さに疲れたら、ここで涼むのも気持ちがいい。

最後に加藤さんは「肉体的には大変だけど、精神的には充実している。そういうことを楽しんでいられることが、一番得!!」と、いう。気力が充実しているからこそ、言える言葉なのだろう。

『金太郎窯×Salon 2B』
常滑市栄町2-53
TEL/FAX 0569(35)0120
（赤井　伸衣）

遺跡　町の考古学

縄文時代の終り（百三一）

奥川弘成

知多半島で縄文時代晩期の遺跡が未だに発見されていない空白域となっているのが、武豊町から美浜町の東部、常滑市南部の知多半島中部域です。ここでは、縄文時代の主要な食材であった海産物が一族を支えるほどの収穫ができなかったことで、生活の跡を残していないと考えられます。

そこで、永らく縄文的な生活文化を継承していたと見られる篠島に視点をあてて、原始時代のくらしを考えてみようと思います。

篠島は、知多半島の先端、師崎の沖合い約四㎞にある周囲が約六㎞の小島です。島の周囲はがけ地となり急峻な地形で平地が少なく、島の南部は海浜となり、わずかな耕地で自家用の野菜作りがされています。

万葉集第七巻に「夢のみに継ぎて見えつつ小竹島、磯越す浪のしくしく思ほゆ」と詠まれた小竹島は篠島のことといわれています。「夢ばかり続けざまにみえて、小竹島の磯を越す波のように後から後から彼女のことが思い出されてくるよ」と抒情的な歌です。次々に磯に打ち寄せられた波から万葉の人が近くても遠い存在であった篠島を恋心にたとえているかのようです。

篠島神明社貝塚の貝層

この近くても遠い島には、縄文時代の遺跡が多数あります。中でも島民の崇拝を集める神明神社には、縄文時代晩期の貝塚があります。

神明神社は字神戸一〇一番地にありますが、字神戸地区は、全てが遺跡といわれるほど遺跡が密集しています。この遺跡（神明社貝塚）の発見は昭和六〇年六月、当時篠島小学校に赴任していた日本考古学協会員の山下勝年氏が神明神社の社務所の建替を聞き、遺跡発見の可能性が高いことを予察したことに始まります。

以下、山下勝年氏が編集した「神明社貝塚」の調査報告書から調査経過を紹介します。

神明神社の新たな社務所は地下に部屋を造る設計がされて、約三㍍もの深さで掘り下げる構造でした。工事が始まり、重機によって掘り下げていく中、山下氏は住民の方々と共に遺跡発見に努めました。

そして、地表下約二㍍までは平安時代から江戸時代にかけての陶器が出土し、その下層から須恵器、土師器、製塩土器などの古代の遺物を確認しました。また、約三㍍掘り下げたところでは、弥生時代の土器が出土。時代ごとに順序だって堆積した地層を見ることができました。

そうであれば、この下層に縄文時代の遺物があるはずだと、縄文時代の層を発見し詳細な記録することを目的として急遽、知多地域の考古学研究者に調査協力の依頼がされました。

六月二十二日午後、縄文時代の地層に向けて本格的な発掘調査が開始されました。筆者も、山下氏に随行し篠島に渡り、地元の折戸建氏と石橋伊鶴氏とともに弥生時代の地層下に縄文時代の地層が必ずあるとの確信をもって黒っぽい褐色の砂層を掘り進めました。

砂の層を三十㌢ほど掘り下げると岩場に生息する小さな巻貝やサザエや大アサリなど、今では料理屋で特別に注文して食べる貝が細かく砕けて真っ白くなって堆積しているのを発見しました。

（つづく）

いべんと

ある半島の弘法大師信仰と伝統的な仏様の見方に迫ります　講師　大善院住職　外山昊晃氏　場所　青海公民館学習室1　対象　市内在住・在勤の人　定員　二十五名　申込み期限　十二日（金）

▼自主事業『そば打ち教室』・十月五日（日）午前九時～正午　内容　そば作り　講師　後田周克さん・岩田隆さん　場所　青海公民館料理室　対象　市内在住・在勤の人　定員　十二名　受講料　無料　材料費　二千円　持ち物　エプロン・ふきん・三角巾　申込み期限　二十四日（水）

◎**鬼崎公民館**

▼自主事業　親子ふれあい事業　親子で巻きずし作り・十月十一日（土）午前九時半～正午　講師　管理栄養士　村瀬香代子さん　会場　鬼崎公民館料理室　対象　市内の小学生親子　定員　十二組　受講料　無料　材料費　六百円程度　持ち物　まきす、エプロン、三角巾、布きん、持ち帰り用容器　申込み期限　二十六日（金）まで鬼崎公民館にお申込みください（電話申込み可）　問合せ　鬼崎公民館☎43―0660

◎**南陵公民館**

▼ヤングカルチャー　スイーツ教室・十月七日、十月二十一日・二十八日（各火・全四回）午後七時半～同九時　講師　尾崎恵子さん　場所　南陵公民館料理室　対象　市内在住・在勤の青年男女（三十五歳まで）　定員　二十名　受講料　千二百円　教材費　四千円（四回分）　申込み期限　二十七日（土）　問合せ　南陵公民館☎34―4748　FAX36―0074

◎**知多市地域文化センター**

▼創作クラブ『ドアノック』・二日（火）～三十日（火）午前九時～午後四時半　内容　あき缶のリサイクルとして、ドアノックをつくり音色を楽しみます　材料費　一個百円

▼季節の工作『月見かざり』・二日（火）～三十日（火）午前九時～午後四時半　内容　お月見のかざりを作ります　材料費　一個百円

▼いろあそび『藍染め』・二十日（土）～三十日（火）午前九時～午後四時半　内容　藍を使った染め物を楽しみます　材料費　一枚二百五十円

▼五十円工作『きらきら壁かけ』・二日（火）～十月三十一日（金）午前九時～午後四時半　内容　油性ペンでかいた絵がキラキラ輝く壁かざりを作ります　材料費　一枚五十円

▼五十円工作『らっかさん』・二日（火）～十月三十一日（金）午前九時～午後四時半　内容　投げ上げてふわりと開いて落下する楽しいおもちゃを作ります　材料費　一枚五十円

▼キッズルーム4『キッズイングリッシュクラブ』・十月八日～十二月十日の水曜日（全十回）午前十時～同十一時　内容　親子が遊びやゲームを通して英語に親しむ　講師　竹本マリビックさん　対象　おおむね二歳～就園前の親子　定員　十組（一組二名まで）（申込み多数の場合は抽選）　参加費　一組四千百円　申込み　十日（水）まで

◎**ギャラリー共栄窯**

▼第八回国際陶磁器展美濃グランプリ受賞記念　太田貢作品展・二十日（土）～二十九日（月）

◎**ギャラリーCera（常滑市観光プラザ）**

▼柴田望金工展～八日（月）

▼水野静仙記念展・十二日（金）～二十二日（月）

▼谷川勝明陶展・二十六日（金）～十月六日（月）

◎**常滑屋**

▼『平島毅 exhbtion「Wait」2008』～七日（日）

▼荒関雄星・稲垣征弘『北の陶人展』・九日（火）～十四日（日）

▼サマサマ『秋もやっぱり自然素材で!!』・十六日（火）～二十一日（日）

▼『森下美智子展』・二十三日（火・祝）～二十八日（日）

▼はちはち『天然工房　はちはち』・三十日（火）～十月五日（日）

◎**陶芸サロン陶美園**

▼福岡琢也作陶展・二十七日（土）～十月五日（日）

◎**ギャラリーセピカ（まるふく内）**

▼吉田壷堂展・五日（金）～十五日（月）

▼森田勇作個展・十九日（金）～二十八日（日）

◎**方円館**

▼森下宗則展～十日（水）

▼ピーター　シーブリッジ展・十二日（金）～二十四日（水）

◎**ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）**

▼おしゃれなミニ盆栽と器展　柴田勝一・二十日（土）～二十八日（日）

◎**武豊町立図書館**

▼知多地方教職員美術展（知多図工同好会）・～十八日（木）

◎**武豊町中央公民館**

▼武豊写友会写真展・七日（日）～二十日（土）

▼武豊たまりラーメンアイデアコンテスト（第二回全国醤油ラーメンサミット）・二十一日、二十八日（各日）

▼家庭教育セミナー『仕事を持つお母さんの子育て』・九日（火）午前十時～正午　子育てに関する学習会と質疑応答　参加費　無料

▼親業体験！学習会『子供が困った時に安心して話せる関係を』・九日（火）午前九時半～正午　講師　親業インストラクター　杉澤みどりさん　参加費　千円

▼わいわいパソコン相談室（NPOネット　パソコンボランティア）・十三日、二十七日（各土）午後一時半～同四時

▼パソコン広場・四日、十一日、十八日、二十五日（各木）午後一時半～同四時半

▼福寿大学⑤健康に関するお話・十七日（水）午前十時～正午　定員　五百名（六十歳以上の方）　参加費　無料

◎**武豊町総合体育館**

▼救急フェア　応急手当の方法、AEDの使い方、はしご車の試乗会など・十四日（日）午前九時半～正午

▼第9回チャレンジギネス大会・十四日（日）

▼武豊町エンジョイビーチボール大会・二十日（土）

◎**武豊町民会館ゆめたろうプラザ**

▼講談教室・五日～十月十日（各金・ただし十月三日は除く・計五回）午後六時～同七時半　講師　神田　紫さん　定員　二十名

◎**半田市青山記念武道館**

▼子育て支援事業『レッツ・トライ！2・3！』・二日（火）

▼第六十二回半田市体育大会　剣道競技　中学の部・六日（土）　柔道競技　中学の部・十三日（土）　一般の部・二十一日（日）

▼平成二十年度半田市民柔道大会　一般、中学の部・七日（日）

▼半田市ジュニア柔道大会・二十日（土）

◎**東大高児童館**

▼敬老の日のプレゼント作り・十三日（土）午後一時半～同三時

▼月見だんご作り　十四日（日）午後一時半～同三時

◎**長尾山児童館**

▼月見だんご作りと会食・六日（土）午後一時半～同三時半

▼敬老の日のプレゼント作り・十三日（土）午前十時半～午後三時半

◎**くすのき児童館**

▼月見だんご作り・七日（日）午後一時半～同三時半

▼敬老の日のプレゼント作り・十四日（日）午後一時半～同三時

◎**おおあし児童館**

▼月見だんご作り・六日（土）午後一時半～同三時

▼敬老の日のプレゼント作り・十三日（土）午後一時半～同三時

▼手話クラブ・二十日、二十七日（各土）午後一時～同二時

受講料　二千五百円

▼小鼓・〆太鼓体験教室・十一日、二十五日、十月十六日、十一月十八日、平成二十一年一月十一日、二十八日、三十一日（小鼓・午後六時十五分～同七時十分　〆太鼓　午後七時十五分～同八時十分・全九回）　定員　各五名ずつ（小学五年生以上）受講料　五千円　レンタル料別途

▼現代美術鑑賞～アートが作る不思議な世界を感じよう！～・十三日（土）、十四日（日）聴く・観る・体験アート　①聴くアート「WOVEN」オルゴールを使って　②観るアート「壺中天」壺を使って　③体験アート「Vibracion Cajon」太鼓を使って　無料

▼ゆめプラモーニングコンサート②　大正琴アンサンブルの楽しみ（琴珠会エスパース）・十七日（水）午前十時半開演　チケット代　五百円（ドリンク付）

▼ルアー製作教室・二十日（土）午前十時～午後四時　定員　十名（小学五年生以下）　持ち物　筆記用具、三十㎝ものさし、はさみ

▼NPOたけとよ設立五周年記念謝恩事業　オーケストラ・アンサンブル金沢・二十一日（日）午後三時開演　曲目　ベートーヴェン交響曲第一番ハ長調　モーツァルト　アイネ・クライネ・ナハトムジーク　バッハ　G線のアリア　チャイコフスキー　弦楽のためのセレナードよりワルツなど

◎**半田空の科学館**

▼名月コンサート　ファミリージャズコンサート・十三日（土）午後六時半～同八時半　定員　二百四十名

▼お月見会・十三日（土）午後七時半～同九時　時間内自由参加　無料　悪天時中止

◎**半田市青山記念武道館**

▼子育て支援事業『レッツ・トライ！2・3！』・二日（火）

▼第六十二回半田市体育大会　剣道競技　中学の部・六日（土）　柔道競技　中学の部・十三日（土）　一般の部・二十一日（日）

▼平成二十年度半田市民柔道大会　一般、中学の部・七日（日）

▼半田市ジュニア柔道大会・二十日（土）

◎**東大高児童館**

▼敬老の日のプレゼント作り・十三日（土）午後一時半～同三時

▼月見だんご作り　十四日（日）午後一時半～同三時

◎**長尾山児童館**

▼月見だんご作りと会食・六日（土）午後一時半～同三時半

▼敬老の日のプレゼント作り・十三日（土）午前十時半～午後三時半

◎**くすのき児童館**

▼月見だんご作り・七日（日）午後一時半～同三時半

▼敬老の日のプレゼント作り・十四日（日）午後一時半～同三時

◎**おおあし児童館**

▼月見だんご作り・六日（土）午後一時半～同三時

▼敬老の日のプレゼント作り・十三日（土）午後一時半～同三時

▼手話クラブ・二十日、二十七日（各土）午後一時～同二時

若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で発行所へ

護国芋食べて八月十五日　吉田ひろし
裏方としての人生遠花火　片岡　光子
南溟に魂残りいる海の日よ　青山　文代
仰ぎ見る忠魂碑の背に雲の峰　谷川と志江
ハンカチをタオルに替へて七月尽　竹内すゞ代
涼やかに裾をのばして十勝岳　冨田　悦子
かなた文字の形ととのい夏休み　桑山　撫子
蝉時雨母と暮らして一箇月　浦崎ひとみ
息止めて薬振り撒く蟻殺し　馬場　利明
両耳を押さえ行く子や蝉時雨　林　京子
十二時のサイレン遠く百日紅　河瀬四四子
暑気中り見舞の人も水中り　中村　克己
魂祭魂の数だけ供物あり　藤井　文月
救急車近くに止まる熱帯夜　岩田つま子
子も孫も戦知らずや庭花火　谷川　利子
戸の隙間這入込みたる夜の蝉　幾世八千代
ネクタイを緩め乗り込む冷房車　曽我部和美
重量をクイズにしたる大南瓜　磯村美耶子
明烏鳴く刻開く蓮の花　村井みさを
遊ぶ児の影見ずなりぬ夏休み　やましたゆう
緑陰は暫し止まる一里塚　久田　篤
欲とゆうものの悲しさ生身魂　荒川　達夫
信号を待つ間もさがす片かげり　竹内ユミ子
朝顔や嫁のほめたる花の色　村野　範子
垣根裏空蝉二つ反りて在る　山中　博子
孫の声大空ぬけて入道雲　渡辺　民子
たこ釣って酢だこにして食べました　森田加代子
濯ぎ物干す背を流る玉の汗　中村　勝
何もかも嫁にまかせる盆支度　佐藤　きぬ
大暑かな道行く人も足早に　杉江　ちゑ
太鼓たたき今日はみんなで虫送り　堀本　定子
赤々と実るトマトが採れました　諏訪　清子
風鈴も音を忘れる暑さかな　岩橋　美幸
いそいでる立秋の風せみしぐれ　井野　洋子
天翔ける白龍うねる夏の雲　中村　洋子
柴山　庄山

わが家のニューフェイス

河合　来輝（６ヶ月）　武豊町下山ノ田

写真・文　河合　栄実ママ

僕♡河合♡ライキ
6ヵ月でしゅ。最近
下にぴょっこり歯が
はえてきてくすぐっ
たいよ。僕のお気に入りは、夜寝
る時パパとママに囲まれてギュー
ッとされてから3人で仲よく寝る
事なんだよ。早くパパとママとい
っぱいお話ししたいな。今はまっ
ているのは、ママとお歌を歌いな
がらピアノを一緒に弾くことでし
ゅ。毎日がとても楽しいな♡♡

愛とMy Family

久田　哲平（6ヶ月）啓輔（2才11ヶ月）逸平（6ヶ月）　常滑市阿野町

写真・文　久田　茜

僕の名前は啓輔。僕
には今年のお正月に
生まれた双子の弟が
いるんだ。そっくり
みんなよく間違え
られるんだ。僕は絶対間違え
ないよ。最近2人とも寝返り
をうって、僕が走らせるトミカを
真剣に見てるんだ。早く僕と遊び
たいのかな。2人が大きくなっ
たら、僕が色んな遊びを教えてあげ
るんだ。早くおっきくなあーれ!!!

タオル・繊維製品
総　合　卸
名城商事
株式会社
名古屋市中川区松葉町４丁目57番地
TEL〈052〉362-1531（代）

誠意と真心で…あんしんのかけはし
葬儀のすべてを、お引き受け致します
24時間体制完備
CSK葬祭
0120-33-5909
常滑市　あいち知多農協・冠婚葬祭友の会指定特約店
青海 瑞雲殿
TEL.0569-44-2234（直通）
常滑市青海町1丁目1番地〈国道155号線沿い〉
100台駐車可能の大駐車場完備

常滑 瑞雲殿［本社］
TEL.0569-35-2785（代表）
常滑市北条1丁目34番地
200台駐車可能の大駐車場完備